

省エネ大賞決まる

フクシマ、前川、熱源が受賞

一般財団法人省エネルギーセンターは、優れた省エネ推進の事例や省エネ性に優れた製品・ビジネスモデルを表彰する「2019年度省エネ大賞」の受賞者をこのほど決めた。100件以上の応募があり、省エネ事例部門は25件、製品・ビジネスモデル部門は27件が受賞をした。

省エネ事例部門では、フクシマガリレイ(旧福島工業、大阪市)とティスカウントストアを展開するトライアルカンパニー(福岡市)は、AIを活用したPMV(快適性評価指標)制御などによってスーパー店内の快適な空調環境と省エネを表現したことが高く評価され、経済産業大臣賞を受賞した。

食料品を扱う店舗のエネルギー使用量は冷凍・冷蔵

ショーケースが店舗全体の5割以上を占める。そのため、生鮮食品や冷凍食品の売場では買物客から「店内が寒い」という声が多くあがるといふ。

そこで、冷凍冷蔵空調メーカーのフクシマと全国でスーパー246店舗を展開するトライアルが店舗の快適性と省エネ推進という相反する課題に挑戦し、効果あげた。

具体的には①空調の吹き出しやショーケースの配置の見直しとゾーン分けで温度湿度を管理したほか、②冷凍ショーケースの気流最適化設計、③PMVによる空調制御、④冷凍冷蔵機、エアコン、換気、デシカント(除湿)などのトータルエネルギーをAI制御で最小化するEMS(エネルギーマネジメントシステム)の導入などを取り組んだ。PMVは温度や室内の輻射温度、気流、人間の活動量と着衣量などの指標のことで、これをAIで解析して空調を制御することで快適な環境と省エネを実現できる。

この結果、広さ3千平方メートルの店舗では従来に比べて16・1%の電力と、電気使用契約の基本料金に影響する電力アロードの9%削減を達成した。

前川、共同で蓄電池工場省エネ

前川製作所は、ライムアイズEVエナジー、豊田通商、高砂熱学工業、パナソニック環境エンシニアリングと共に「資源エネルギー庁長官賞(共同実施分野)」を受賞した。

具体的には、リチウムイ

帯から低温帯に至る加熱源を機器の特性に応じ選択し、分散化などにより大規模な省エネを実現した。

日本熱源はCO2

オノソーダ蓄電池新工場における空調・生産設備等を中心とした省エネ取り組みが評価された。既存工場の工程のシンプル化や、必要な高温

賞(輸送分野)」を受賞した。日本熱源システムは地球温暖化計数(GWP)が1の空冷式CO2冷媒冷凍機「スーパークリーン」で省エネ大賞の「中小企業庁長官賞(製品・ビジネスモデル部門)」を受賞した。夏場に冷凍能力が低下するCO2冷媒の課題解決や省エネ効果が評価された。

東芝キャリアは冷凍機

「PROCOOL」で「省エネ大賞」を受賞した。エネルギーセンター会長で、その高効率性が評価された。

表彰式は29日午前、東京

「PROCOOL」で「省エネ大賞」を受賞した。エネルギーセンター会長で、その高効率性が評価された。

表彰式は29日午前、東京

ビッグサイト(会議棟)で開く。午後から受賞事例発表会を開催する。29日31

日に開催する「ENEX2020」会場のアワードコーナーで受賞内容の展示も行う。